

令和6年度 第2回 幸区地域包括支援センター運営協議会議事録

- 1 会議名 令和6年度第2回幸区地域包括支援センター運営協議会
- 2 開催日時 令和7年2月13日（木） 午前10時00分から11時40分まで
- 3 開催場所 幸区役所4階第3会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 三條委員（会長） 豊田委員（副会長） 髭内委員 田中委員
山本委員 渡部委員（6名）
 - (2) 地域包括支援センター 川田センター長（夢見ヶ崎） 柳原センター長（かしまだ）
 - (3) 事務局 幸区地域みまもり支援センター 荒木所長 上久保副所長
幸区役所高齢・障害課 倉課長 石松係長 高野職員
幸区役所地域ケア推進課 小田係長
幸区役所地域支援課 外村係長、高田係長
- 5 欠席者 高村委員、村田委員（2名）
- 6 傍聴者 0名
- 7 議題（公開）
 - (1) 令和6年度幸区課題整理シート（地域包括支援センター事業）の進捗報告
 - (2) 地域包括支援センターから市／区への提案に対する幸区回答報告
 - (3) センター長からの近況報告と意見交換
 - (4) その他：令和7年度運営協議会1回目の日程について（事務局提案）
- 8 配布資料
【事前郵送での配布資料】
《当日使用資料》
次第
資料1 令和6年度幸区課題整理シート（地域包括支援センター事業）
資料2 「地域包括支援センターから市／区への提案」に対する区回答及び回答説明の結果報告
【当日配布資料】
次第（差し替え）
座席表
川崎市地域包括支援センター【幸区版】パンフレット
さいわい健幸BOOK チラシ
- 9 審議経過
【開催宣言】司会（石松係長）
【伝達事項】事務局より
 - ・「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条に基づき、会議は公開。
 - ・会議録の作成には委員名を記載するものとし、文書開示請求があった場合には委員名は原則開示。

【会議成立の報告】

委員 8 名のうち 5 名出席。高村委員、村田委員欠席。委員の半数以上の出席あるため
会議成立報告。髭内委員は後刻到着予定。

【所長挨拶】

【資料の確認】

【会長挨拶】

【議事開始宣言】

<議題 1 >

「令和 6 年度幸区課題整理シート（地域包括支援センター事業）の進捗報告」

【資料 1 について事務局より説明】

【質疑応答】

田中委員

「ひとり暮らし調査」は介護保険サービス未利用の方向けで、8 0 0 0 件実施とのことだが、
虐待対応案件の所内点検会議は 6 5 件との報告があった。この 6 5 件の中には介護保険の
サービスを利用している方も含まれるのか。

事務局

含まれる。見守り継続の方も含めると、常時 6 0 件程度対応が継続している。

会長

課題が多くあり、実際に取り組みを進めるのも非常に難しさがある。1 件 1 件取り組むこと
に対して、多くのマンパワーと時間を要しているのではないかと思う。

高齢化が進んでいく中で、退職されてからも活動できる方も一定数いるが、そういった方が
実際に手伝う件数は区の取り組みに限らず増加傾向にあるのか。

事務局

あまり増加していない。互助の動き自体高まっていない印象。町内会、自治会でも同じ方が
長年役員を務めていて、その方が引退したときに“誰が後任になるのか”という課題が多い。

会長

退職まで就労していた人ほど、逆に気力がなくなってしまう、支える側から一気に支えられ
る側になってしまうのではないかという懸念がある。

後期高齢者に至らない年齢の方々の、マンパワーとしての確保、及び支えられる側にならな
い予防的な取り組みを積極的にしていただきたい。

<議題 2>

「地域包括支援センターから市／区への提案に対しての幸区回答報告」

【資料 2 について事務局より説明】

【質疑応答】

田中委員

かしまだ包括の“質問 1”については自身も大きく感じている。ケアマネでも行政でも、業務に対しては個人差があるのが現状。区の「新任研修等の機会を通じ、職員に伝えていきます」という回答に期待したい。

みんなと暮らす町の“質問 10”に、「認知症訪問支援事業をより活用しやすい形へとする」とあるが、数年前チーム員として関わっていたときは毎月案件があったが、ここ最近は案件がない月もあると聞き、変わりように驚いた。支援に繋がるまでのプロセスで何か課題があるのではないかと感じている。

会長

ほぼこの 1 年は案件がないと聞いている。家族が先に医療機関に受診同行できてしまうのか。そもそも案件自体があがってきていないのではないかな。

事務局

逆に言うとも忘れ外来や訪問診療等が普及したがゆえのこと。病院を紹介してくれれば、家族で連れて行けるというケースだと、認知症訪問支援事業を経由すると「所定の会議を待たなくてはいけない」という点があるため、包括で医療機関を紹介するという方が早く対応できる場合が多い。

都心部であるほどこの事業は苦戦していると聞いている。訪問診療などが少ない地域は、「行政主導」が重宝されることがある。

渡部委員

市内でも幸区が特別少ないということか。

事務局

当区よりも会議の開催が少ない区もある。

渡部委員

成年後見制度で後見人を務めたりしているが、受任してもすぐに亡くなってしまうケースが多い。支援者が「つなげなくては」と考えた時点ではもう遅いことが多いのではないかな。

「ご本人が亡くなる前に相談してくれれば、何かしてあげられたのか」と感じるケースはとても多い。

会長

早くに受診できているケースもあるが、そうでないケースもたくさんあるのではないかな。感触としては、以前よりはこの課題に対して良くなっているといえるのかな。

事務局

支援の手段は増えているが、介入が始まった時にはかなり厳しい状況になっていることも多い。特に成年後見制度の場合は審判が下りるまでに少なくとも3か月程度はかかり、その時間差で事態が進行してしまうことが少なくない。

会長

もっと早くに支援につながるような働きかけをしていくことが必要と思う。

豊田委員

かしまだ包括の“質問1”に対する区回答での「新任研修等の機会」というのは、入庁1年目の新規採用職員向けだけのものかな。

事務局

各部署へ初配置される職員への研修であり、各課で新任研修を行っている。「それぞれの部署で行う」といった意味合いのものである。

豊田委員

研修はどんな内容になるのかな。特に、包括は医療や福祉が連携する必要があるため、その分野については内容として重要だと思う。

介護保険以外にも、市単独事業や他にも様々なサービスがあるためその活用方法、よくある事例を紹介するなど、工夫できるといいなと思う。担当区域も含めて具体的な動きを提示した方がよいと思う。

また、かしまだ包括の“質問4”の「包括の地域活動へ助言サポート」に関することだが、地域活動については、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会からも様々な情報を入手しやすいと思う。日頃からそういった関係機関とのつながりも作っておくことが必要かなと思う。区レベルで様々な取り組みがなされているとは思いますが、地域差、社会資源の違いなども踏まえたうえでの助言ができればなおよいと思う。

更に、認知症の症状が出る前に早期に介入できる方法について、関係機関と連携をとれる具体的な策があるとよい。“認知症訪問支援事業の案件がない＝医療が浸透している”という可能性もあるが、実際には見えていないケースの方が多いと思う。認知症の初期症状に対する基準を作り、関係機関で共有することができないかと感じている。地域ケア会議の内容も様々な事例検討や共有の機会として設けてもいいと思う。

会長

認知症の早期発見は難しい。対象を“住民票で〇歳以上の高齢者”とした上で老人クラブや

町内会等の力も借り、一軒一軒訪問するしか実際は変わらないと思う。認知機能の低下が顕著な状態で見つかった場合、「早急に介護保険につないで特養入所できるかどうか」といった事例は多い。地域での交流が希薄になっている今、互助が難しい状況かと思う。

髭内委員

今年度から麻生区と幸区でモデルケースとして取り組んでいる事業で、要支援や独居の方など、異常行動が見られる高齢者の方の情報を主治医、衛生士、看護師などから川崎市に報告するものがあるが、市にあがった報告は区にも情報提供されているのか。

事務局

実例発生している。

会長

それは区の高齢者支援係に直接報告するのか。

事務局

モデル事業では、市に報告する形式となっている。

会長

区へ直接情報提供を行った方が対応も早いのではないか。支援につながるまでの時間短縮が課題の今、逆に時間がかかってしまうことになる。モデルの段階から区に直接報告する形式がよいと思う。

事務局

実際にエントリーが最近始まったばかりで、市としても試用期間であるため、今後市の担当部署が、事業を検証して改善していく見込みである。

<議題3>

「センター長からの近況報告と意見交換」

＊川田センター長（夢見ヶ崎地域包括支援センター）、柳原センター長（かしまだ地域包括支援センター）参加

【各センター長より挨拶】

川田センター長（夢見ヶ崎地域包括支援センター）

現在7名体制。今年度は欠員補充ができ、3職種が全て揃っている。人口33,000人程度の地域で、高齢化率は24.5%で幸区全体より少し高い地域。長く勤めている職員も多く、協力して業務を行っている。

柳原センター長（かしまだ地域包括支援センター）

現在、実働6名と事務1名の7名体制。3月に1名退職予定。3職種が欠けることはないが、今後定年退職を迎える職員もいるので、職員の募集をかけている状況。過去2回地区割が変わった地域だが、来所での相談も増えてきている。介護予防のケアマネジメントでは委託率を上げられるよう取り組んでいる。

【近況報告・意見交換】

柳原センター長

長年、「ハイジカフェ」という認知症カフェを開催しているが、バスの運行が少ない地域もあり、事務所から遠い地域の方々の来所は難しい。

認知症カフェでは「早期の段階から状態を把握し、サービスにスムーズにつながるように」というコンセプトのもと、これまで開催していた。しかし「遠方からの参加が難しい」という課題があったため、“事務所から離れた地域でもハイジカフェを立ち上げることができないか”ということで新たな場づくりとして検討を始め、北加瀬のこども文化センターをお借りして模擬開催することができた。ボランティアの方、認知症の疑いのある方や虚弱高齢者の方を今後どのように募っていくのかなど、課題は多くあるが、民生委員や地区社協の方々などと一緒に作り上げている最中。

田中委員

従来のハイジカフェは専門職の方が中心であったが、出張ハイジカフェは民生委員やボランティア、地区社協が中心となっていて、活気があって、参加者側も運営側のスタッフにとってもいい居場所になっていけばよいと思った。

会長

北加瀬のこども文化センターは、何人くらいが利用できるスペースを確保できたのか。

柳原センター長

一番広い場所を借りることができ、4～50人くらいは参加できる。ボッチャができるスペースを確保していて、それが半分を占めている。

今3回模擬開催をして、ボランティアなど含め全員で30人くらいが参加している。中には認知症、虚弱の高齢者の方だけでなく、独居の方、見守り対象の方もいる。

会長

要支援にも満たないような方もいるのか。

柳原センター長

要支援を受けてほしいが「本人にその気がない」場合などもある。地域の既存の場に行けな

くなった方、老人会を忘れてしまった方などを地域のサポーターが迎えに行き参加していただくパターンもある。

包括支援センターの職員が全員参加をしてしまうと、総合相談業務に支障が出てしまうため、今後開催継続を考え地域の方の協力もお願いしながら取り組んでいる。

田中委員

地域の方々が多く参加されていて、とても活気があり圧倒された。

柳原センター長

会食会が中止になってしまったエリアでの開催であった。

地域の方とのつながりの場も減ってしまったのも地域課題としてあった。

会長

3回の模擬開催の中で、毎回同じ顔触れなのか、新規の方もいるのか。

柳原センター長

来週もまた開催予定だが、新しく参加する方もいる。入院してしまい、1回限りの参加となってしまった方もいた。より早い支援の介入のタイミングを図りたいと考えている。

会長

夢見ヶ崎特養でも開催しているカフェがあるが、要支援もしくはそれ以前のレベルの方が多く来るのか。また、毎回同じ顔触れなのか。

川田センター長

施設まで来られる方を対象にしているので、比較的元気な要支援くらいまでの方が多い。顔触れは大きくは変わっていないが、対象を高齢者に限っていないため、精神障害の方、子連れの方も含め、誰でも来られるようにしている。体操教室への参加が難しくなった方が来ることもある。支援に繋がらない方、自宅への訪問を拒否する方でも、カフェであれば来てくれる方もいる。支援者にも来ていただいて顔つなぎの場とするなど活用している。

豊田委員

包括には精神障害の方の相談も多く来るのか。

川田センター長

「どこに連絡したらよいかわからない」という方や、民生委員から心配の相談があることもある。一旦は相談として受け、その後適切な機関に繋いでいる。

“きいてみれ場きてみれ場”という検討会を、月1回開催している。「障害者相談支援センター」や「ひきこもり支援センター」の方も参加され、各機関への顔つなぎ、合同での事例検討を行っているため、情報交換がしやすい関係性はできている。

様々な課題を抱える世帯も増えてきているので、関係機関の方の助言をいただく機会があることで、「支援の幅も広がっている」という実感がある。各機関がこういった役割をしているのかが分からないと繋ぐことができないので、まずはそれを知ることも目的の一つ。

事務局

“きいてみれ場きてみれ場”は、障害者の「自立支援協議会」から始まったもの。幸区内に、「かしまだ」と「夢見ヶ崎」のエリアを担当する相談支援センター（ラルゴ）があったため、自立支援協議会から独立して継続しているという経緯がある。

川田センター長

当初は、障害者相談支援センター、包括、南部機関相談支援センターだけであったが、ひきこもり支援センターの方なども来ていただけるようになった。普段聞くことのできない現場の動きを知ること自分たちの活動にも役立つ。

実際に、ケアマネから「担当している高齢者の自宅に引きこもりの方がおり、今後ケアマネとしてできること、注意した方がよいことはあるか」と相談が入ることがある。そういった場合、“きいてみれ場きてみれ場”に来ていただき、事例検討の機会に助言をいただくこともある。

豊田委員

月1回の開催で包括の負担は増えてしまうが、研修の一環にもなり、広がりとしてよいと思う。

会長

ケアマネの委託率が低いという話があったが、以前からケアマネの絶対数が少ないという課題があった。要支援の方は要介護に比べて利益が少ないため、「受けたくない」と思われている現状。そういった収入面が理由で委託率が高められないのか。

柳原センター長

介護認定で要介護の方は包括で担当できない為、ケアマネが担当する。要支援の方は包括でも担当できるので、ケアマネの絶対数が少ない現状を鑑みると、包括で担当せざるを得ない状況。ただ、包括の業務量にも限界があるため、要支援の方でも状態変化が見込まれる方は積極的に委託している。

会長

包括も業務が多岐にわたるため、委託率を上げていかないと回らないと思う。

柳原センター長

今年度末で退職する職員が約30件担当していたが、それらは委託調整ができた。

また、今年度からの取り組みとして新任のケアマネがバーンアウトしないよう、勉強会を開

催している。開催自体が「包括の負担にならない」というわけではないが、勉強会を通して困ったときに早期に相談できる体制ができれば、長期的には包括の業務負担の軽減につながるのではないかと考えている。

会長

夢見ヶ崎包括でも委託率は問題になっているのか。

川田センター長

全体の5割弱の方を委託している。以前に比べると委託しづらくなっている。

ご夫婦で介護認定を受けている場合は二人とも同じ方に委託するが、一人の場合は内部の居宅介護支援事業所で担当することが多い。ケアマネを探すのが大変という印象。

会長

委託先はある程度限定されているのか。

川田センター長

委託先は自分のエリアの中で限っているが、事業所や担い手自体が増えない。包括主催でケアマネ喫茶やうり坊喫茶を開催しているが、その際に必ず空き状況のアンケートをとっている。また、最新の空き状況等は電話で聞くなどして委託する。

渡部委員

今抱えている課題で一番大変だと感じていることは何か。

かしまだ

職員が一名退職すること。一人減ることの大きさを感じると思う。採用が一番の課題。

夢見ヶ崎

長く勤めている職員が多い現状、後継者が不足していること。

今行っている事業が、「今のメンバーだから成り立っている」という現状。誰か一人欠けてもできるのか、新たな人材を育成する為にはどの程度時間を要するのか、更新育成が課題。

会長

定年はいくつなのか。また、定年を過ぎても勤めている職員はいるのか。

柳原センター長

法人で60歳と定められており、その後は年度毎の契約になる。現在定年後の職員はいない。

川田センター長

65歳が定年。定年後の職員は1人いる。パートは年齢制限なく可能だが、業務は体力勝負。

【議事終了宣言】

<その他>

事務局より「令和7年度第1回運営協議会の日程について」の提案

日程の候補日は、令和7年9月11日(木) 幸区社会福祉協議会にて開催予定となった。

【閉会宣言】

終了

文責：高齢者支援係 高野